

胎藏マンダラの資料について

八 田 幸 雄

胎藏マンダラは大日経を所依の經典として画かれたものとされている。しかし少し細部に亘つて眺めると様々な思想が混入して極めて複雑である。今他の思想はさて置き、大日経疏や義釈を参照しても充分には理解されない。また秘藏記、諸説不同記、現図抄私等の資料を見ても主要尊はとも角、細部の尊に至つては紛らほしい箇所が多々ある。このことは根本經典である大日経自体に多くの問題が含まれているのであり、それが尾を引いていることを見逃してはならない。本研究では大日経のマンダラに関する部分、具緣品〔Gと略す〕。普通真言藏品〔F〕。密印品〔M〕。秘密マンダラ品〔H〕の四品を比較対照するとともに、漢藏二訳をも対照して問題点をつきとめ、伝承された諸資料の中の混乱した原因を明かにし、正しい資料の活用を計ることを目的とした。紙数の関係で特に問題の多い、釈迦、文殊、除蓋障、地藏等に限る。

一 釈迦部(1)

胎藏マンダラの資料について (八 田)

- 〔G〕 24 白傘 *gdugs dkar po*, 25 勝頂 *rgyal bahi gtsug*, 26 最勝頂 *gtsug tor nam par rgyal ba*, 27 衆徳火光聚 *gzi brjid phun po*, 28 捨除頂 *nam par mthor*,
 〔F〕 76 三仏頂 *gtsug tor gsum*, 77 白傘仏頂 *gdugs dkar po*, 78 勝仏頂 *gtsug tor rgyal*, 79 最勝頂仏頂 *gtsug tor nam par rgyal ba* 80 火聚仏頂 *gzi brjid phun po*, 81 除障仏頂 *nam par bhor ba*,
 〔M〕 84 白傘仏頂 *gdugs dkar pa*, 85 勝仏頂 *gtsug tor rgyal ba*, 86 最勝仏頂 *nam par rgyal ba*, 87 除業仏頂 *nam par bhor ba* 88 火聚仏頂 *gzi brjid phun po*, (89)……*cher byun ba*, 90 発生仏頂 *gyen du bhyun ba*, 91 無量音声仏頂 *mthah yes pa ye dbyans sgra*,
 〔H〕 40 白傘 (傘) *gdugs dkar po*, 41 勝頂 (J) *rgyal bahi gtsug*, 42 最勝頂 (輪) *nam par rgyal ba*, 43 除障頂 (鉤) *nam par bhor ba*, 44 大士頂 (髻) *gzi brjid phyun po skal chen*, 45 成生 (金剛) *cher bhyun ba*, 46 発生 (蓮華) *mnon par bhyuns*, 47 無量音声 (貝) *mthah yas sgra dbyans*,

G—五仏頂。F—76三仏頂と五仏頂。M—五仏頂の中、87除業・88火聚は、G 27・F 80火聚、G 28・F 81捨除頂と順序が入れ替わる。M(藏)には89(広生)があるが漢訳には欠く。H—五仏頂、三仏頂の名が明記されている。順序はMと同じである。M 88火聚とH 44大士頂は藏訳を参照すると同一の尊である。以上のように釈迦部の仏頂について記述の順位、訳し方の違い等がある。

胎藏四部儀軌では漢訳Mに欠けていた広生の記述があり、真言も明記されている。藏訳並に四部儀軌に広生の名があるところから漢訳の写し落としとみられる。秘藏記、諸説不同記では①白傘、②勝、③最勝、④高(蓮如意宝)、⑤摧破、⑥大転輪、⑦光聚(蓮上宝)、⑧無量声となつてゐる。大日経と比較すると、④高と⑦光聚が入れ替わり、しかも④高仏頂は蓮を示した尊となつてゐる。

現図は向つて右、①白傘、②勝、③最勝、④高、⑤摧破。左、⑥大転輪、⑦光聚、⑧無量声となつていて光聚仏頂と高仏頂とが入れ替る。

二 文殊部(2)

[G] 61 妙吉祥 rdo rje dam pa shyin pa, 62 網光 dra bañi hod can, 63 髻設尼 skra can, 64 優波髻設尼 ñe skra can, 65 質多羅 sna tshogs ma, 66 地慧 nor can ma, 67 請召 ñugs ma, 68 奉教者 phyag brñan ma ni ñha nams,

[F]……85 髻設尼 skra can ma, 86 髻波髻設尼 ñe skra can, 87 質多羅 sna tshogs ma, 88 財慧 nor ñan ma,……74 (光網) dra bañi hod,

[M] 43 文殊師利 ñiam dpal, 44 光網鉤 dra bañi hod, 45 無垢光 dra ma med pañi hod 46 髻設尼 skra can, 47 優波髻設尼 ñe bañi skra can mduñ rse, (次)……sna cho gos mañi dhyag pa, 48 地慧幢 nor can gyi rgyal mshan, 49 請召 ñugs mañi lcags kyu, 50 奉教者 phyag brñan ma rna-ms,

[H] 92 曼殊者 ñiam dbyaṅs blo dan ñan pa, 93 光網 dra ba can gyi hod, 94 宝冠 gshon nu rin chen cod pan, 95 無垢光 gshon nu dri med hod, 96 妙音具大慧 ñiam dbyaṅs blo dan ñan pa, 97 髻設尼 skra can, 98 優波 ñe skra can, 99 質多羅 sna tshogs ma, 100 地慧 nor ñan ma, 101 招召使者 ñugs ma, 102 諸奉教者 phyag brñan ma,

訳の不統一は次のように関連する。G 62網光= F 74光網= M 44光網鉤= H 93光網。G 66地慧= F 88財慧= M 48地慧幢= H 100地慧。

Fには主尊文殊及び請召奉教を欠く。またM漢訳には質多羅を欠くが藏訳には記載されている。したがって漢訳の密印品を見る限り、ケシニー、ウバケシニー、地慧(財慧)、請召、奉教者となる。藏訳では具緣品、真言藏品と同様にケシニー、ウバケシニー、質多羅、地慧、請召となる。このために

F の四尊しかない記述のことと相俟つて、地慧(財慧)と質多羅、及び地慧と請召が混同し、ひいてはこれ等四尊が混乱する結果となる。

胎藏四部儀軌では地慧—質多羅の順に真言が説かれてゐる。秘密記では文殊五使者を①ウバ、②奉教、③使者、④使者女、⑤鈎召と伝え、大正藏經圖像部の御室版のマンダラも同様である。諸説不同記は圖像の上から秘藏記の伝承に対して訂正している。現図抄私は①ウバ、②不思議、③持慧(財慧)④難色(質多羅)、⑤鈎召と伝えつつゐる。これ等何れも混乱の原因は大日経に基づいてゐるにやぶる。

三 除蓋障(3)

[G] 75 除蓋障 sgrib pa thams cad rnam ser geo, 76 除疑怪 dpañ bo ño mtshar can, 77 施一切無畏 mi hñigs sbyin,

78 除一切惡趣 ñan soñ thams cad shyon ba, 79 救意慧 skyon sems blo gros, 80 悲念 bro can snin rjes gduñs pa, 81 慈起 byams pa shon du hbyañ ba, 82 除一切熱惱 gduñ ba thams cad shi byed, 83 不可思議 blo gros bsam yas,

[F]89 除疑怪 ño mtshar can, 90 施一切衆生無畏 sems can thams cad la mi hñigs pa sbyin pa, 91 除一切惡趣 ñan soñ thams cad spoñ ba, 92 哀愍慧 yon su skyon sems blo gros, 93 大慈生 byams pa chen po mñon par hbyañ ba, 94 大悲纏 snin rjes gduñs pa, 95 除一切熱惱 gduñs pa thams cad shi bar byed pa, 96 不思議慧 bsam gyi mi khrab pañi

blo gros can,

[M]51 除疑怪 ño mtshar can gyi rdo rie, 52 施無畏 mi hñigs pa sbyin pa, 53 除惡趣 ñan soñ ba, 54 救護慧 yon's skyon sems blo gros, 55 大慈生 byams pa hbyan ba, 56 悲念 snin rjes brñan pa, 57 除一切熱惱 gduñ ba thams cad shi bar byed, 58 不思議 blo gros bsam gyis mi khyob pa dan ldan pa,

[H] 103 除一切蓋障 sgrib pa rnam ser brison hgrus che, 104 除疑 ño mtshar can, 105 施無畏 mi hñigs pa sbyin pa, 106 除一切惡趣 ñan soñ thams cad spoñ ba, 107 救意慧 skyon sems blo gros, 108 大慈生 byams pa chen po du hbyan ba, 109 悲念 blo can snin rjes gduñs pa, 110 除一切熱惱 gduñ ba thams cad shi byed pa, 111 具不思議慧 blo gros bsam gyis mi khyob pa dan ldan pa,

F・M には除蓋障がない。漢訳名が続一やれつゝなごのり蔵訳を参照しつつ各尊を関連づけるゝ次の通りとなる。G 78・F 91・H 106 除一切惡趣 = M 53 除惡趣。G 79 救意慧 = F 92 哀愍慧 = M 54 救護慧 = H 107 救意慧。G 80 非念 = G 81 慈起の順序は F・M・H になつて慈々悲々なつてゐる。F 93 大慈生 = F 94 大悲纏となる。

配位の仕方に二系統がある。G を例にとる。

A	※	79	78	77	76	75	80	81	82	83
B	※	82	80	78	76	75	77	79	81	83

右の例で⑦6 83は間違わないが他の番号では混同しやすい。そこに加えて80 81悲と慈が他の品では逆になるから一層混乱をおこしやすい。

胎藏図像に除蓋障を欠くのは経のFとMに無いからである。胎藏四部儀軌には除蓋障を入れている。秘藏記は救護慧を悲愍としたために悲愍が二尊あることとなった。そして最下位尊83の位置を日光とする。諸説不同記は中尊を不思議慧、最下位を日光。現図抄私は中尊を除蓋障、最下位を日光とする。これ等はみな誤りである。現図は上から①救護慧、②除一切惡趣、③施無畏、④除疑怪、⑤除蓋障、⑥悲愍、⑦慈發生、⑧折諸熱惱、⑨不思議慧である。

四 地蔵部(4)

[G] 84 地蔵 sa yi sñin po, 85 宝掌 rin chen hbyun gnas, 86 宝手 rin chen lag, 87 持地 sa hdsin, 88 宝印手 rin chen phyag rgya, 89 堅意 bsam pa brtan pa,

[F]97 宝処 rin chen hbyan gnas, 98 宝手 phyag na rin chen, 99 持地 sa hdsin, (100).....gzugs thob pa, 101 宝印手 phyag na rin chen phyag rgya, 102 堅内意 bsam pa brtan pa,

[M] 59 地蔵 sañi sñin pohi mi tog, 60 宝処 rin chen hbyan ldan, 61 宝手 phyag na rin chen gi phyag rgya, 62 持地 sa hdsin, 63 宝印手 phyag na rin chen gi phyag rgya, 64 究堅 固意 bsam pa brtan pa,

[H] 112 地蔵 sañi sñin po, 113 宝作 rin chen hbyan gnas, 114 宝掌 rin chen lag, 115 持地 sa hdsin, 116 宝印手 phyag na rin chen phyag rgya, 117 堅意 bsam pa brtan pa,

Fには主尊地蔵がない。また漢訳に尊名不明の真言がある。漢訳各尊の訳が統一されていないので藏訳に照らして関連づけると次の様になる。G 85宝掌=F 97宝処=M 60宝処(但し北京版、ベルゲン版 rin chen hbyan gnas, ナルタン版 rin chen hbyan ldan)=H 113宝作。G 86宝手=F 98宝手=M 61宝手=H 114宝掌。となる。このためG 85宝掌 rin chen hbyun gnasとH宝掌 rin chen lagとが混同され、それがもとで宝手、宝処、宝掌、宝作が混乱してしまふ。

次に現図マンダラでは宝手と宝印手の図像が入れ替っている。訳名と配位から考えて尊の配位は正しく、図像を違えている。このことも大日徭に遡るものを含む。それは次の通りである。

[G] 88 宝印手 rin chen phyag rgya,=[F] 101 宝印手 phyag na rin chen phyag rgya (F 98 宝手 phyag na rin chen と類似)= [M] 63 宝印手 phyag na rin chen gi phyag rgya (北京版 phyag na rin chen phyag rgya, とあり M 61 宝手の印 phyag na rin chen gi phyag rgya と誤り易い)= [H] 116 宝印手 phyag na rin chen phyag rgya。

以上のように原典に問題が含まれている。漢訳H 114宝掌に

は宝掌……印と注記せられている。(大正18・35・c)このように經典の記載があいまいであるから、それが尾を引いて混乱してくるのである。

胎藏四部儀軌ではMの主尊の位置に記述されている地蔵の真言をとり入れて、地蔵部を組織している。秘藏記、諸説不同記では最下位尊を除蓋障とするもこれは誤りである。大正圖像の御宝版の図では宝印手と宝手の圖像を入れ替えてみればよい。また宝手が二尊あるのは宝掌、宝手の訳の混同から来たものである。現図抄私は宝処、宝手、宝光、宝印手を混同していて不明瞭である。

五 虚空藏部

現図の虚空藏院は全く大目経を離れた立場で組織されているので伝承された資料は使用出来ない。密印品の内容は漢藏二訳の間で異なり、また秘密マンダラ品と密印品の象徴する内容が異なる。このことについては拙稿胎藏「マンダラ虚空藏院の思想」を参照されたい。(印印研十八巻二号四四九頁)

六 最外院

最外院は尊数が多いので一々の尊を省き、概略を示したい。經典では釈迦部の中に示されている。

〔G〕 伝統的に重要なヒンドウ諸神の名が記述されている。多聞天は無いが八方天に近い組織が見られる。

〔F〕 諸尊の真言を記述した部分と種子を記述した部分があ

る。前者には伝統的な重要尊が見られ、後者にはダキニー、ビシャーチャー、部多、キンナラ、マゴラカ等が出る。

〔M〕 〔F〕と類似するが、この他に七曜、九執、二十八宿等の天体関係の尊の記述があり、〔F〕とは違った系統にあることが分る。

〔H〕 密印品をうけている。但しアスラ、ビシャーチャー、ヤシャ、宿曜の記述は無い。

胎藏四部儀軌は〔F〕と〔M〕の綜合を企てている。玄法寺儀軌、青竜寺儀軌では四天王を配している。

現図は八方天、更には十二天の思想をもとに、七曜、九執、十二宮、二十八宿を中心に外院が構成されている。そして四天王によつて四方が護持されている。ここに伝統的仏教思想との調和が見られる。

註 大正、大正藏經第一八巻、ハ、北京版第五巻を示す

- | | | | | |
|---|-----|-------------------|-----|-------------------|
| 1 | 〔G〕 | 大正7-c, ヷ 246-3-2 | 〔F〕 | 大正16-b, ヷ 251-4-6 |
| | 〔M〕 | 大正29-a, ヷ 260-4-8 | 〔H〕 | 大正35-a, ヷ 264-4-1 |
| 2 | 〔G〕 | 大正18-a, ヷ 264-5-2 | 〔F〕 | 大正16-c, ヷ 251-4-8 |
| | 〔M〕 | 大正27-a, ヷ 259-4-6 | 〔H〕 | 大正35-b, ヷ 264-5-7 |
| 3 | 〔G〕 | 大正8-b, ヷ 246-5-6 | 〔F〕 | 大正16-c, ヷ 251-5-1 |
| | 〔M〕 | 大正27-b, ヷ 259-5-7 | 〔H〕 | 大正35-c, ヷ 265-1-3 |
| 4 | 〔G〕 | 大正8-b, ヷ 247-1-1 | 〔F〕 | 大正18-c, ヷ 251-5-3 |
| | 〔M〕 | 大正27-c, ヷ 260-1-7 | 〔H〕 | 大正35-c, ヷ 265-1-7 |